

3 になる社会
+ 1 が
1 たね!
敵素

コラボレーション

協働

..... c o l l a b o r a t i o n
2007 夏号



- P.2 特集
ボランティア活動の基盤強化とは
- P.5 紹介します!ボラセンの取り組み
「西宮市社会福祉協議会 ボランティアセンター」
- P.6 クローズアップ!助成団体
「学生ボランティア活動助成(平成18年度採択)」
- P.7 広がれ! ボランティアネットワーク
「『NPO』と『特別支援学校』のいい関係」
- P.8 広がれ! V-NET
- P.9 やってみよう☆情報発信～コラボネット～
「コラボネットバージョンアップ!」
- P.10 プラザ通信
「現在募集中のひょうごボランティア
基金助成制度のご紹介」etc.



ボランティア活動の基盤強化とは ～ひょうごボランティアプラザ5年間の教訓～

平成14年6月に開所したひょうごボランティアプラザは、今年で満5歳になりました。手探りで始まったボランティア活動の基盤強化のメニューも多彩になりましたが、今回はそのなかでも試行錯誤を重ねてきた資金助成を取り上げ、この5年間で見えてきた課題を探ります。

●2007年(平成19年)7月15日発行(年4回発行) 第29号 ●編集 発行所/社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会 ひょうごボランティアプラザ
●TEL:078-360-8845 FAX:078-360-8848 ●発行人/武田 政義 ●編集人/森 聖児
●〒650-0044 神戸市中央区東「岡町」1-13神戸ウリスビルタワー10階 URL <http://www.hyogo-vplaza.jp>

ボランティア活動の基盤強化とは ひょうごボランティアプラザ五年間の教訓

ひょうごボランティアプラザ所長 小森 星児

五年前、プラザが設立された時点での県内NPO総数は二百団体でしたが、いまや千二百団体に迫る勢いです。この数字を見る限り、公益的市民団体が法人格を簡単に取得できる道を開くこの制度の趣旨は十分に生かされたといえるでしょう。

しかし、新しい公を担うボランティア組織の脆弱な活動基盤を強化するというプラザのミッションに照らすと、まだ力が及ばないところが少なくありません。そこで、満五年という節目を迎えたのを機に、ここでいくつかの課題を取り上げてみたいと思います。

《ひょうごボランティア基金による助成の特色》

県内にも、プラザのような公設・準公設のNPO支援施設がいくつか

誕生しました。当然ながらその受け持つ機能はほぼ共通してはいますが、資金助成という面ではプラザの役割は突出しています。全国的にも最大級の存在なので、ここではNPOに対する資金供給面を中心に論点を整理してみましょう。

ご承知のように、プラザでは三年間の助走期間を経て、一昨年からひょうごボランティア基金による本格的な資金助成を開始しました。市民団体に対する活動資金提供はさまざまですが、プラザの助成プログラムの特色は以下の点にあります。

1. 分野を特定せず、市民活動全体を対象とする
2. 持続的な事業推進能力を重視する
3. キャパシティ・ビルディングを強化する
4. 先駆的・実験的な事業を奨励する

5. 間接経費を認める
6. 中間支援的な活動を促進する
7. イベント開催など一過性事業を助成対象から除く
8. アウトカム基準を評価する
9. 赤字補填的な助成をしない

こうした特色は、前身である阪神・淡路大震災復興基金と比べると、一層明瞭になります。復興基金の場合、慰霊行事は別として、被災地での生活再建、防災、まちづくりなどの分野に力を入れ、また即効性が求められました。県内全域を対象に、分野別では全方位を指向し、基礎体力作りを重視するボランティア基金とは、おのずから戦略が異なります。

《なぜ間接経費を助成するのか》

せっかく助成が決定しても、事業実施に必要な間接経費が認められな

いため、やる気のある団体ほど経理が苦しくなることがよくあります。なぜNPOには間接経費が認められないのでしょうか。それはNPO活動の本質が、支援者から寄付や助成金を集め、それを外部の不特定多数の受益者に財やサービスの形で提供する仕組みにあるからです。支援する側は、自分のお金が途中で目減りしないで受益者に渡ることを望んでいます。説明不足のため誤解を招いたホワイトバンド運動がよい例です。

ひょうごボランティア基金の場合は、ボランティア活動の基盤強化というミッションを掲げているので、パワーアップ助成やインターン助成のように組織強化のための資金や、事業実施に必要な間接経費を助成の対象にしています。しかし、NPO法人のように市民による監視が可能な組

組織は別ですが、団体のアカウンタビリティ（結果についての説明責任）が不明確な場合は間接経費への助成は難しいかもしれません。

《事業報告書の書式改善が鍵》

プラザの場合、助成金の選考に際し「事業計画書」だけでなく、事業推進能力を判定するためにNPO法人が作成した閲覧書類、プラザの交流サロンに常置されている各団体の情報ボックスやホームページ、それと現地訪問の報告を総合して決定します。

そのなかでもっとも重要なのは、NPO法人が毎年作成している事業報告書であると考えられます。しかし、実際には故意に情報を出し惜しみしていると思えない報告が多いことに驚かされます。

もっとも、NPO法には具体的な記載の方法が明示されていません。しかし、たとえば雨森孝悦教授は近著で「シーズⅡ市民活動を支える制度をつくる会」が設置した「アカウンタビリティ研究会」の成果に基づ

き（注1）、事業報告書の基本的要素として、①法人の目的に対する貢献、

②次年度以降の活動方針、③重要な計画の変更、④外部の資金で実施した活動の内容と成果、⑤組織体制の5点を含むとしています（注2）。

事業報告書は、本来、行政に届け出するために作成するのではなく、市民に活動内容を知らせるための手段です。その意味で極めて妥当な提案だと思われませんが、なぜ多くのNPOは詳細な開示を怠るのでしょうか。その理由のひとつは、法人化申請の際、余計なことを書かない方が面倒が少ないことを体験するからでしょう。実際、各府県は事業報告書の作成例を示していますが、必要最小限の条件を例示するのが普通です。その点、愛知県の作成例はよく考えられていて参考になります。簡略化した作成例を次頁に示しますが、そのポイントは、①事業内容が定款に即して分かりやすく示されているか、②各事業の収入・支出内訳が示されているか、③その他事業が定款と整合しているか、④総会及び理事会が

適切に開催されているかの4点です（注3）。

愛知県の調査報告書によると、NPO法人の8割が県の作成例に準じた報告書を提出しているとのことですが、ボランティアセクター全体の社会的信頼を高める上で重要な要素だと思われます。

企業は利益を挙げるのが目的なので、事業実績を反映する財務諸表が重要です。しかし、NPOの場合は事業報告書が主で、会計報告は従の関係にあります。したがって、外部の人間に活動内容や成果をアピールできないような事業報告書では、助成金を獲得することは難しいといわざるをえません。

ホームページを見ても、だれがこの組織を運営し、だれが支援しているか分からないのが普通です。たとえばアメリカのNPOのホームページを見ると、理事や担当者の写真や経歴が紹介されていて、寄付やボランティアをした人に情報を提供しています。国民性の違いといえばそれまでですが、日本には寄付の文化

が根付かないという前に、団体としての信頼性を高める工夫が必要でしょう。

なお、本年6月の国民生活審議会総合企画部会NPO法人制度検討委員会最終報告が、「特定非営利活動法人は、業務運営に必要な人材や資金の確保という面で課題を抱えているものが多い。このため、法人は自身の情報を積極的に公開し、人材や資金の確保につなげることで、その運営基盤を強化することが求められる。（中略）市民への広範な情報公



本年6月プラザで開催した助成事業説明会には約120人が参加しました

開という点については、公開している事業報告書や財務諸表の内容が不十分・不正確といった課題がある。さらに、情報公開を進める上で、インターネットの活用は有効であるが、インターネット上で得られる特定非営利活動法人の情報は未だ限定的である」と指摘していることも真剣に受け止めることが望まれます(注4)。

(注1) シーズー市民活動を支える制度をつくる会 アカウンタビリティ研究会『NPO法人の外部報告に関する基本的な考え方・中間整理』(平成17年11月)

URL: <http://www.npoweb.jp/action/accountability.php>

(注2) 雨森孝悦『テキストブック NPOー非営利組織の制度・活動・マネジメント』東洋経済新報社(平成19年6月)

(注3) 愛知県 NPO財務分析・会計支援事業 調査報告書『NPO法人の財政状態及び会計処理の現状について』(平成19年3月)

URL: <http://aichi.npo.gr.jp/>

(注4) 国民生活審議会総合企画部 報告『特定非営利活動法人制度の見直しに向けて』(平成19年6月)

URL: <http://www.npo-homepage.go.jp/>

愛知県事業報告書の作成例(一部抜粋)

1 事業実施の概略

本法人の定款第5条第1項第1号①の事業として、〇〇講演会事業及び〇〇ボランティア講座事業を実施するとともに、第1号②の事業として、.....、を実施した。
また、定款第5条第1項第2号のその他の事業は実施しなかった。

2 事業の実施に関する事項

ポイント①

(1) 特定非営利活動に係る事業

ア 〇〇講演会事業

(ア) 事業内容

〇〇問題に対する社会一般の理解・知識を深めるため、有識者を講師に招き、〇〇問題の現況、解決に向けた先進的取組事例等を紹介する講演会(計3回)を、一般市民を対象に有料で開催した。

(イ) 開催日時及び講師等

日時	場所	テーマ	講師	従事者	参加者
H〇.〇.〇 13:00~ 16:00	〇〇市民会館 研修室	全国各地域における〇〇問題への市民の取組みについて	〇〇の会 〇〇〇〇会長	事務局職員 1名 正会員3名	一般市民 205名

(ウ) 支出額 294,500円

(内訳) 講師謝金・旅費(3名分)80,000円
正会員従事者日当・旅費(延べ11名)55,000円
会場借上料(3回分)135,000円
会場看板代等雑費24,500円

ポイント②

(エ) 収入額

294,000円(内訳) 講演会参加料(平均単価500円、延べ588名)294,000円

ポイント③

(2) その他の事業に係る事業 本年度は実施せず。

3 会議の開催に関する事項

ポイント④

(1) 通常総会

ア 開催日時及び場所

平成〇年〇月〇日13:00~16:00〇〇〇〇ホール

イ 議題

①特定非営利活動法人の設立の認証及び登記に係る報告

(2) 理事会

ア 第1回理事会

(以下省略)

紹介します

ボラセンの取り組み

地域と学校の連携ですすめる

福祉学習！

今回は
【西宮市】

今回は、小地域での人材育成を視野に入れたわくわくサポーターの養成など、西宮市社会福祉協議会が取り組んでいる地域と学校の連携による福祉学習を紹介します。

福祉学習のねらい

西宮市社協では、市内全域を9つの支部、33の分区（概ね小学校区）に分けて地区ボランティアセンターを設置するなど、小地域での住民主体の地域福祉活動を支援してきました。

さらに、「一人ひとりがまちの『福祉』に関心をもち、理解を深めることが暮らしやすい西宮につながる」という考えから、福祉学習の対象を子どもだけでなく、高齢者も含めた地域に暮らす全住民としています。

今までの活動を発展させよう！

同社協は、これまで福祉教育実践指定校制度に基づき、福祉学習に取り組む学校を支援してきました。その取り組みを地域の全住民を対象とする福祉学習に発展させるために掲げたのが「地域と学校との連携」

です。

しかし、いきなり連携を！と言っても、中心となる人や仕組みがなければ一歩を踏み出すことも難しい。そのため、これまでの学校中心の福祉学習からの転換を目的に、連携の要として配置されたのが「わくわくサポーター（福祉学習推進者）」です。わくわくサポーターは、講習を受けた住民が福祉学習プログラムの企画やその実施を通じて、地域と学校とのつなぎ役となること、また、住民の立場で福祉学習を理解し地域に広げていく役割を担っています。

それだけでなく、西宮市社協は市内の数地区で、地域と学校が連携して福祉学習のプログラムづくりをする「モデル事業」を展開（平成17年度）するなど、連携のための人材育成と仕組みづくりを行っています。

連携してすすめる

福祉学習のポイント！

- ①話し合いを持つこと
- ②共に学ぶ姿勢を持つこと
- ③お互いの状況を理解すること

“こんにちは”が 交わされる地域に

効果が顕著に現れたのは、住民の「意識変化」でした。学校の登下校で、地域住民と挨拶を交わす子ども達。つながりが希薄化したとよく指摘されますが、ここでは和やかな風景が拡がりを見せています。また、支部・分区ごとに住民が作成した「地区福祉計画」でも、福祉学習の推進「方策が盛り込まれ、住民の意識の中に福祉学習が少しずつ浸透してきています。

福祉学習は、学校との関わりだけで

ボラセン職員から一言！

「福祉学習の取り組みを永く続けていくことで、全市に福祉の視点を持ち続ける人が増えていってほしい。そのために、わくわくサポーター養成やモデル事業などを今後も継続していきたいです。」

瓦木分区の事例

小学校と住民がモデル事業により「校区安全マップ」を作成。児童・保護者が住民とともに一から作成し、学校の授業や家庭で活用するなど、さらに福祉学習を深めています。このモデル事業を通して、そのプロセスや学びを大切にしたいという住民や学校が増えてきています。



西宮市社会福祉協議会 ボランティアセンター

〒663-8233 西宮市津門川町2-28 西宮市福祉会館4階
TEL (0798) 23-1142 FAX (0798) 23-3910
URL <http://www.n-shakyo.jp>



○学生ボランティア活動助成について

この事業は、兵庫県内の大学等の学生を対象に、次の2つの助成コースを設けています。

〈普及・体験事業助成〉

学生向けボランティア入門、体験事業に対しての助成
〈連携・支援事業助成〉

学生主体のボランティアコーディネートや相談発信事業、大学等間のボランティア活動支援に関するネットワーク作り事業に対しての助成

18年度は、子どもを対象とした活動が6件。国際理解活動1件。ボランティアコーディネート活動1件。災害等に関するネットワーク作り活動1件で、9申請すべて採択となり、学生らしさを活かした活動づくりが採択時の期待にこめられました。

今回は助成団体のうち2団体に報告いただきます。

「セカンドベース」

小学生と放課後を過ごす活動

げんきっこ新在家プロジェクト 代表 浦川典子
私たちの活動は学童保育終了時間から、保護者のお迎えが来るまでの間(18時～19時半)をサポートする活動です。教育に関心のある学生、地域ボランティアを中心に、キャンパス内で宿題や遊びに寄り添い、児童の放課後の充実を図っています。この度は、児童と保護者が参加できるイベントや新規学生募集に助成いただきました。そしてイベントや保護者との懇談会を通じて児童、保護者の意見を反映させた活動づくりを心がけています。

今後も保護者が安心して就労できるよう信頼される活動を継続していきたいです。

連絡先「電話：〇七九二九二一九三七〇」

大学間「災害救援ネット」構築事業

いざという時に役立つネットワークを

神戸大学学生震災救援隊 代表 羽尻皓一

私たちは阪神淡路大震災を契機に被災地支援活動をしている学生団体です。兵庫県内の大学ボランティア団体同士のネットワークを平時から作り、被災地支援に活用するため活動助成をうけました。ネットワークの維持には課題が残りますが、まずは、顔が見える関係づくりをスタートさせることができました。

今後はメールリングリスト等を活用した情報交換で連携できればと考えています。このネットワークに参加したい！学生団体は是非ご連絡ください。

連絡先「電話：〇七八八八二四七五五」

18年度助成団体

1	(特)ウイズネイチャー
2	関西福祉大学手話サークル「にじ」
3	げんきっこ新在家プロジェクト
4	神戸学生ユニオン
5	神戸大学学生震災救援隊
6	神戸大学総合ボランティアセンター
7	神戸大学どんぐりチーム
8	国際交流・国際協力支援団体CLUB GEORDIE
9	だんごの会

◆活動継続のポイントは記録!◆

日々の活動に忙しく、記録や振り返りに時間がとれないまま、事業報告の際に焦る！ということが見られます。また、資金面でも支出の記録がない場合もあり、資金管理方法に課題を感じました。

これらの改善策として、“記録の習慣づくり”をお願いしました。団体設立からの経緯や活動の様子をまとめた資料を保管していくことで、学生団体の共通の課題として挙げられる後輩への引き継ぎや活動の見直し、助成金の獲得にも役立ちます！

団体に合った負担にならない記録のとり方を検討し、“想い”が“重い”にならないように、団体の情報を整理してみましょう！

—用意しておく便利なもの—

- ・ 団体の活動趣旨文
- ・ 活動歴（大まかな行事）
- ・ 活動の記録（活動日、場所、参加者、特記事項、写真、感想など）
- ・ ミーティングの記録（決議事項や話題をメンバー間で共有するため）
- ・ 支出入の記録（購入品目分かる領収書、レシートの保管。交通費等の記録。）
- ・ 保険加入証の控え（保障内容をメンバーに伝えておこう。）

！チェック☑情報の変更があった場合は保管書類の更新を忘れず！☑定例活動の記録は様式を決めて、読みやすく簡潔に。☑資料はみんなが分かる方法、場所にファイリングを！

プラザでは、学生ボランティア活動に関する情報交換を目的としたネットワークづくりのサポートや、活動支援情報の提供を行っています。一緒にステップUPしませんか！

この他の助成事業については、ひょうごボランティアプラザホームページにて公開しています。(http://www.hyogo-vplaza.jp/)

馬上でイキイキ、笑顔の子どもたち （障害児とホースセラピー）

（特）五色ホースクラブ

子どもは馬に乗るととても楽しそうに笑います。馬に乗って笑っているわが子を見てお母さんが泣いていました。理由を聞くと「障害のあるこの子は一生笑わないだろう」と医者に告げられていたそうです。

● 体と心を癒す ホースセラピー（乗馬療法）

人はペットの犬や猫と一緒にいると、穏やかな気持ちになります。数あるアニマルセラピーの中でもホースセラピーには優れた特徴があります。馬との触れ合いによる精神的な癒しはもちろん、運動によるリハビリ効果が期待できるからです。乗っている人の負担が少なく、すみ、乗り手の運動能力に関わらず、誰もが平等に楽しむことができ、障害者や高齢者のリハビリなどに非常に有効とされています。馬には人の体と心を癒す力や、乗馬により脳を刺激する効果なども実証されています。

● ホースセラピーのきっかけ

五色ホースクラブ代表の滝本さんは、翻訳がきっかけでホースセラピーを知ることになりました。その後、乗馬をする獣医師を通じて、乗馬指導のボランティアを依頼されました。同医師の馬と一緒に障害児などへのホースセラピーの体験を重ねるなかで、本格的にホースセラピーに取り組んでみようという想いがしだいに膨み、今の活動につながっていきましました。



お母さんと一緒にホースセラピー
（写真と本文は関係ありません）

特定非営利活動法人 五色ホースクラブ
理事長 滝本 眞弓

〒656-1324
洲本市五色町鮎原三野畑597
TEL 0799-32-1354
FAX 0799-32-1354
E-mail : makio@kh.rim.or.jp

● 淡路特別支援学校との協働

昨年5月のトライやる・ウィークで、中学生と一緒に馬を連れて県立淡路特別支援学校を訪問したことから、同校から滝本さんにホースセラピーの非常勤講師の依頼がありました。これがきっかけで滝本さんとボランティアの人たちが同校でホースセラピーを実施するという協働の関係ができました。

また、協力者の支援で5月に同クラブの新しい馬場が完成しました。滝本さんは「今後は、特別支援学校の生徒の支援に加え、地域の障害を持った方や、引きこもりなど何らかの障害を持った人たちへの支援とともに、その人たちの労働の場としても活かせる馬場にしていきたい」と、夢を広げています。

NPOと特別支援学校のいい関係

兵庫県立淡路特別支援学校

（平成19年度から兵庫県立淡路養護学校は校名が変更になりました）

Q 「五色ホースクラブ」との協働のきっかけは？

A 昨年5月のトライやる・ウィークがきっかけです（本文参照）。そのときに、本校の生徒が先生と馬に乗りました。背筋をまっすぐ伸ばして周りを見つめる生徒の姿は、車椅子に乗っているときと別人のように見えました。

それをきっかけに、「障害の多様化に対応するための指導体制充実事業」の環として、五色ホースクラブ理事（当時）の滝本眞弓さんを昨年10月から当校のホースセラピーの非常勤講師に招くことになりました。

Q 「五色ホースクラブ」と協働する意義は？

A 大きな意味ではノーマライゼーションに基づく特別支援教育の充実であり、障害の重複化・多様化に対応した指導を色々な角度から行えることです。同じ五色町内にあることから、地域の貴重な教育資源として活用できることもプラスです。

生徒が馬の心を理解しようとするところに「コミュニケーション」法を学ばせることができることです。馬と触れることにより、生き物を愛する気持ちが醸成されます。また、乗馬は姿勢の矯正につながります。馬に乗ったときの児童・生徒のいきいきとした姿や笑顔で、ホースセラピーの効果が目に見えて実感できます。

滝本さんや五色ホースクラブの人たちと協働することで、当校がさらに地域に開かれたものになり、これをきっかけに近隣の学校や障害者施設などの地域諸団体・施設との協働の輪が広がっていくことが期待できます。

（取材：地域活動コーディネーター 松本 竹生）

想像する力をかき立てるスローな生活

スローソサエティ協会(姫路市)

現代人は性急に効率や結果だけを求め、それまでのプロセスについては人任せになりがちです。

スローソサエティ協会は、プロセスを楽しむというスローな活動を進めることによって、人間の想像する力を回復させることを目的としています。

プロセスを楽しむ

中小企業経営者の立場からスロー活動の役割を勉強しようという12名が集まり、平成15年に協会の前身となる「スロービジネス研究会」が発足しました。平成16年には100gの畑で菜の花を栽培。翌年、現代の機械を使わず、万力など古くから身近にある道具だけで苦しめて絞れたのは、たった10ccの油。しかしその少量の油が、参加した子どもたちに食料・燃料の大切さを教えてくれました。この活動は現在、電気を消してろうそくの明かりで2時間を過ごす全国イベント「100万人のキャンドルナイト」での「菜種油行灯作り教室」へと続いています。

つながりづくり

同協会では前述の活動などを経て、17年の協会設立以降、起点と終点をつなぐいろいろな事業を展開しています。

スローの達人に雑穀料理や藍染を学ぶスローライフ講座や、生産者の話を聞き生産物を味わうヘルシー食事を開催しています。



“大豆からみえるスローライフ”栽培から豆腐・みそづくりへ

スローソサエティ協会

代表 米谷 啓和 (法人認証申請中)
〒670-0028
姫路市岩端町122-1フィールドトレイン109A
TEL&FAX 079-297-4812
Mail slowoffice@memenet.or.jp
URL http://www2.memenet.or.jp/slovsociety

(取材:地域活動コーディネーター 高村 有子)

さらに、食育講座では大豆から味噌や豆腐などを作ることによって、いつも口にしているものがどうやって出来ているのかを親子一緒に学びます。

また、代表や男性メンバーが子どもを持つて妻のしんどさを知ったことから、「子育てママも自分育て」をしてもらいたいと「ひめまますごころん」も開催しています。

このような事業を通じて、海や畑と消費者、参加者同士、親子、そして子育て中の女性と社会、いろいろなつながりをつくる手助けをしています。

懐かしい未来へ

同協会は、昔に戻ることほできない、車のない生活はできない、しかし、置いてきたものの中の本当の豊かさを思い出し、もう一度つむぎ直すことは可能だと考え、「人と人、人と地域、人と自然のつながりを大切にする社会」を再構築して行くための種時きを続けています。

広がれ! V-NET

子育て中のお母さんに時間のプレゼント

子育て支援グループ キララ(三田市)

三田市男女共同参画センターが開催した全15回に及ぶ「保育サポートー養成講座」の修了生有志により、平成13年、子育て支援グループ「キララ」が発足しました。

プチ・リフレッシュ講座

「キララ」は最初、子どもの発達や子育てについて勉強する講座を開催しました。その中でお母さんは、自分自身の「時間」を必要としている、ということを感じたことから、子どもを預かってお母さんに趣味を広げてもらう「プチ・リフレッシュ講座」を開催。

その後、お母さんに安心して外出を楽しむでもらう子ども預かり日「キララの日」も設けました。

また自主事業以外に、他団体からの講座やイベントでの保育依頼も増えていきました。

知っておくことが大事

「キララ」メンバーは、多くの子どもに接するうち、他の子とは違った行動をする子どもがいることに気づき、「さんだ子ども発達支援センター」の開催する「療育研修会」への参加でさまざまな発達障害について学びました。

障害についての理解を深めることにより対応ができると感じた「キララ」



保育風景

子育て支援グループ キララ

代表 矢野 久美子
〒669-1324
三田市ゆりのき台1-1-L-303 梶元様方
TEL 070-6502-4802
FAX 079-562-7511
Mail kirara_2001@hotmail.co.jp
URL http://www.kippy-de.net/mypage/kirara/

(取材:地域活動コーディネーター 高村 有子)

多様なニーズに対応

障害だけではありません。いろいろな子育て、保育のニーズに応えるため「キララ」は、今年度から小学校高学年、外国籍の子どもたちなども受け入れるキッズルーム「キララ」もはじめました。

多くの「キララ」メンバーは他のボランティア活動にも熱心ですが、そこで得たものを「キララ」に還元して多様な子どもに対処できるよう間口を広げお母さんに「大丈夫、心配しないで。」と言ってあげる存在でありたいと思っています。

コラボネットバージョンアップ!!

ひょうごボランティアプラザでは、子育てや高齢者の支援、緑化活動、交流行事などのボランティアな活動を、『地域づくり活動情報システム～コラボネット～』で発信しています。

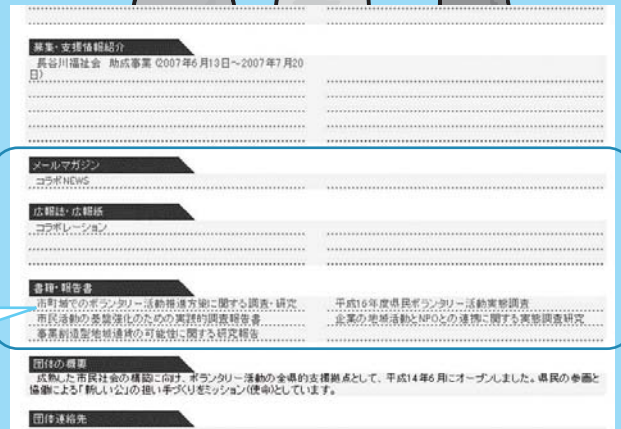
コラボネットの機能が一部バージョンアップしました！まだご存じでない方はぜひ一度お使いくださいね。



団体情報

- ◆ メールマガジン、広報紙、書籍・報告書の欄を設けました。URLを登録するとホームページに直接リンクすることができます。

文字をクリックするとホームページでの掲載箇所にジャンプします！

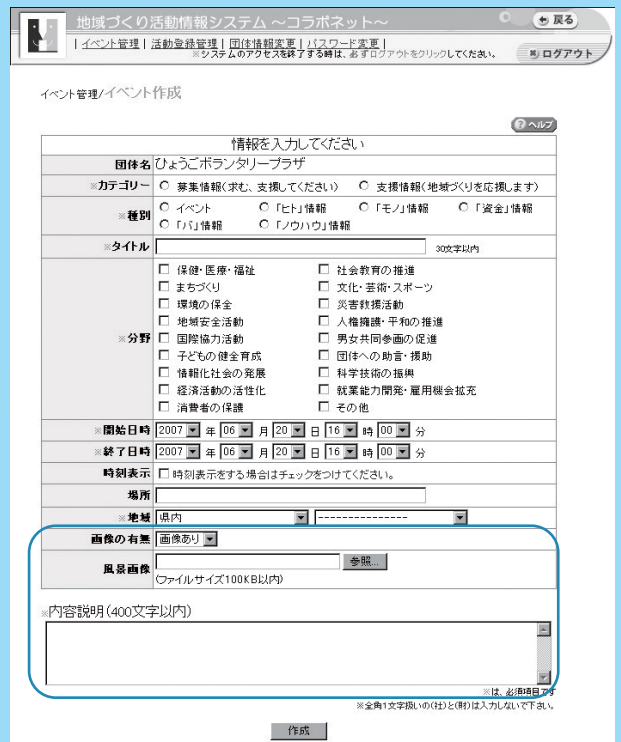


地域づくり活動情報

- ◆ 「活動説明文」及び「団体からのメッセージ」の本文中にURLを入力すると、ワンクリックでリンク先へジャンプできるようになりました。
- ◆ 従来の10件から1,000件まで登録できるようになりました。（各団体の詳細画面では10件の表示ですが、地域づくり活動情報一覧からは全件を見ることができます）

イベント・募集・支援情報

- ◆ 「内容説明」が400文字まで入力できるようになりました。
- ◆ 写真やチラシなどの、画像の添付ができるようになりました。操作方法は従来の地域づくり活動情報と同じです。
- ◆ 既に公開中の内容を利用して、新しい情報を簡単に発信できるようになりました。



地域づくり活動情報システム(コラボネット)とは...

県内の「地域づくり活動」に関する情報を、インターネットを通じて広く発信し、情報の共有化、さらには団体相互の連携、交流のきっかけづくりを支援することを目的とした情報システムです。コラボネットを利用して情報発信を希望される方は、プラザホームページのトップ画面の「★新規登録はこちら」をクリックしてください。「団体に関する基本情報」の登録画面が出ますので、必要事項を入力してください。活動団体番号 (ID) とパスワードを発行します。(TEL) 078-360-8845 (FAX) 078-360-8848 (コラボネット専用E-mail) info@hyogo-vplaza.jp

地域づくり活動情報システム
コラボネット
www.hyogo-vplaza.jp
 携帯サイト www.hyogo-vplaza.jp/mobile/

●(平成18年10月～平成19年3月) 寄付をいただきました。

ひょうごボランティア基金へのご寄付、ありがとうございました。皆様からいただいたご厚志については、ボランティア活動支援や友愛事業に活用させていただきます。

ボランティア活動支援事業へ
寄付いただいた団体・個人
(順不同・敬称略)

兵庫県立神戸高等学校
自治会・厚生委員会 JRC部

(株)六甲商会

姫路市家島事務所

永濱 修

新生兵庫友の会
平成18年度春・秋叙勲受章者一同

兵庫県いなみ野学園 学生自治会

兵庫県遊技業協同組合 青年部会

大阪ガス(株)小さな灯運動 兵庫支部

兵庫県文化賞受賞者懇話会

兵庫県婦人手工芸協会会長 岡田 和幽

友愛事業へ寄付いただいた
団体・個人(順不同・敬称略)

(株)関西スーパーマーケット
代表取締役社長 井上保
(お客様と従業員の方々からのご厚意)

兵庫県自動車事業協同組合
ハイウェイのじぎく会

高垣 恵治

兵庫県いなみ野学園九牛会

社団法人 中華会館

明るい社会づくり運動西神戸の会
代表 佐々木 保

園田競馬場 曾和直榮

宮崎 秀平

兵庫県遊技業協同組合 青年部会

(財)阪神高速道路利用協会
理事長 有川 正治

現在募集中のひょうごボランティア基金助成制度のご紹介!

ひょうごボランティアプラザでは、現在下記の助成制度の募集を行っています。詳しくは、ひょうごボランティアプラザのホームページをご覧ください。

平成19年度ひょうごボランティア基金
県民ボランティア活動助成

県民の地域活動への主体的な参加を促し、ボランティア活動の裾野を拡大するとともに、県民自らが行うボランティア活動の支援を通じて、活動の安定的かつ継続的な発展を図ることを目的とした助成事業を行っています。

- ・ 助成額：3万円(エントリー受理数により助成額を決定しますので、減額となる可能性があります。)

助成金の交付を受けようとするボランティアグループ・団体は、活動を行っている地域の各市区町社会福祉協議会でのエントリー(事前申込)が必要です。

エントリー期間：平成19年7月2日(月)～9月7日(金)



エントリーを受理されたグループ・団体は、助成条件(活動日数、経費支出額等)を満たした後、助成金の交付を申請してください。

詳細は、活動を行っている地域の各市区町社会福祉協議会もしくはひょうごボランティアプラザまでお問い合わせ下さい。

行政・NPO協働事業助成(NPO提案型)

地域の課題解決や活性化に向け、行政とNPOの協働を通じて、より高い効果を得ることができる事業を推進するため、第1年次にNPOが事業企画を提案し、第2年次にNPOが行政の協力を得て事業化計画の立案に当たり、第3年次でNPOと行政が事業を軌道に乗せる3段階の助成プログラムを実施しています。

- 第1年次 NPOによる事業の企画提案書の作成 助成額30万円以内
- 第2年次 NPOによる事業化計画書の作成 助成額60万円以内
- 第3年次 NPOと行政による協働事業実施 助成額100万円以内

応募締切 平成19年8月31日(金)

助成対象団体 NPO法人又はNPO法人に準ずる団体

- お問い合わせ ひょうごボランティアプラザ(兵庫県社会福祉協議会)
TEL:078-360-8845 FAX:078-360-8848
URL:http://www.hyogo-vplaza.jp/
E-mail:vplaza@hyogo-wel.or.jp

プラザ休館のお知らせ

- ・8月12日(日)～15日(水)(盆休み)
上記の間、プラザは全施設を休館とさせていただきます。